

自己評価表

愛媛県立東温高等学校
学校番号 27

教育方針	1 学科の特質と生徒の実態に即した特色のある教育を、地域との連携をしながら展開する。 2 自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践する。 3 公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図る。	重点目標	生きる力をはぐくみ、共に学び高めあう教育の推進 — 社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指して —
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校全般	学校生活への支援	すべての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると感じるよう、あらゆる教育活動で支援に努める。	A	生徒が楽しく有意義な高校生活を送ることができるよう支援できているか、総合的に見て東温高校で教育を受けることに満足しているかの評価で、保護者から高い評価をいただいた。	過年度と比較し、生徒の満足感について評価が下がっているため、生徒自身が学校生活に生きがいややりがいを実感できるよう、教育活動全体を通じて計画的に指導する。
	教育課程の編成	生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について、理解を得られるよう工夫するとともに、運用上の問題点についても対策を講じて、より効果的なものにする。	A	教育課程研究委員会等を通じ、教育課程等の運用改善を行った結果、生徒の進路や実態に応じた類型、コース、科目選択の設定に関する項目で、生徒・保護者ともに高い評価を得ることができた。	高校説明会や中高連絡協議会を通じて、本校の特色ある教育課程について理解を得るとともに、新学習指導要領に基づいた新しい教育課程について研究を深める。
学習指導	教科指導の充実	授業を最重視した学習習慣を確立させるとともに、すべての生徒に「分かる授業」を推進する。	B	生徒からの授業に関する評価については、比較的高い評価を得ることができたが、教員自身の授業改善についての取組が成果として生徒に実感・評価されていない。	生徒の実態に応じ、主体的・対話的で深い学びの過程を通じ、毎時の授業に満足感を持ってよう授業改善に努め、各教科会での情報交換を充実させる。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的として共通実践月間目標を設定し、授業と家庭学習の一体化を図る。	B	類型選択や進路に関する目標を具体的に決め、放課後の学校や家庭で計画的に学習を進めている生徒がいる一方、日々の学習時間が極端に少ない生徒が依然として多い。	本年度、学習時間調査や定期考査の結果、課題の提出状況を基に、学年団を中心に、放課後の学習指導を行った。この成果を家庭学習の習慣化につなげるよう指導する。
進路指導	進学指導の充実	基礎学力を定着させるとともに、各類型・コースに応じた高い位置での自己実現を目指して、最後まで粘り強く挑戦させる。	A	人文・理数・英語理解類型在籍の101名(99%)がセンター試験を受験した。その他の類型・商業科では、1月末時点で、進学希望者の97%が進学先を決定している。	担任・学年団と連携を取り、進学に関する情報提供を充実させることにより、生徒に高い目標を持たせ、進学しようという意欲を高める。
	就職指導の充実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などに積極的に参加することで、社会に貢献する主体的な姿勢を身に付けさせる。	A	企業見学を奨励し、早い段階から履歴書の作成や面接指導を充実させた結果、1月末時点で、就職希望者の96%が内定している。	確かな職業観を持たせ、望ましい生活習慣の育成と学力の向上につなげる。また、情報提供を迅速に行い、主体的・積極的な就職活動をサポートする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心こもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導を行う。	B	大半の生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、落ち着いた学校生活を送ることができたが、挨拶の励行などは不十分であった。	日々の声かけ指導と家庭との連携をきめ細かく行い、共通理解・共通実践のもと、基本的な生活習慣の確立に努める。
	生徒理解への取組	年間6回以上の個人面談を実施し、生徒理解に努める。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭との連絡を密にする。	B	担任と学年主任が中心となってきめ細かな指導を継続することができたが、転・退学者数が増加した。	関係の教師が一人或いは一部で問題を抱え込まないよう、「チーム東温」を意識し、協力できるよう学年団や各課と連携を密に取りたい。
特別活動	学校行事の充実	各学校行事に生徒自ら意欲的に参加する態度の育成を図り、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。	B	生徒の大半が学校行事に意欲的・積極的に参加し、楽しむことができた。しかし、教師主導の活動になりがちで、生徒の充実感や達成感という点では課題が残る。	生徒会執行部による企画運営が少なく、教師主体の運営になっている。体育委員会などと連携を深め、徐々に生徒主体の学校行事になるようサポートしたい。
	部活動の充実	部活動やボランティア活動、対外行事にも主体的に参加できる機会を増やし、自主的に活動できる環境を整え、高い目標を目指すように努める。	A	概ね目標は達成できているが、各部活動によって取組に差がある。JRC部をはじめ、多くの生徒がボランティア活動に主体的に参加していた。	部員数の減少に伴い部の精選が課題である。部室の管理や活動時間の遵守などが甘く、今後成果を上げるためには、普段の活動を見直し、改める必要がある。
人権教育	人権・同和教育の充実	人権が尊重される学校・学級づくりに努めるとともに、生徒に同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図っていくための実践力を養わせる。	B	目標の達成に向けての取組は熱心になされたが、いじめと思われる事例や悩みに対する対応には、保護者の評価がやや低くなっている。人権尊重の意識を高め、人間関係の問題を未然に防ぐことが課題である。	これまでの取組を地道に継続するとともに、教職員の人権意識の啓発に取り組み、生徒の悩みにより細かく対応できるよう、生徒課・教育相談課との連携を深める。
道徳教育	道徳教育の充実	生徒の道徳的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神や自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んじる態度を養わせる。	B	交通規則をはじめ社会のルールやマナーを守る態度を身に付けることについては、保護者・教員の評価と生徒の評価に若干の差がみられた。	全ての教育活動において、生徒の自尊感情を育成し、生徒に自己有用感を持たせるとともに、実践につながる取り組みを継続する。
安全教育	安全教育の充実	安全に関する意識を高め、事件・事故を未然に防止する能力を身に付けさせるとともに、万一の際の事後対応能力を高め、学校や地域社会の安全に貢献できる資質を養わせる。	B	重大事件・事故の発生が無く、自転車乗車中のヘルメット未着用指導者数も減少したが、交通マナーの遵守等、今一步であった。	自分の命は自分で守る意識をしっかりと持たせる。また、地域の安全や安心に貢献できる態度を育成し、さらなる安全教育の充実を努める。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。